

JUKI

第 89 期

平成15年上半期

中間事業報告書

平成15年4月1日から

平成15年9月30日まで

JUKI 株式会社

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また平素は格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに平成15年度上半期（平成15年4月1日から平成15年9月30日まで）の中間事業報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当社は、平成14年度より新しい3カ年計画をスタートさせましたが、その後の著しい政治・経済情勢の変動を踏まえ、本年3月、改めて計画を抜本的に見直し、利益の拡大とキャッシュ・フローの大幅な改善を実現すべく種々の取り組みを開始いたしました。

あらゆる機能のコストを見直しトータルコストを削減するV-30プランの下、工業用ミシンの中国現地生産の拡大、チップマウンターの生産拠点の集約を図るとともに家庭用ミシンの中国生産拡大及び工業用ミシン・家庭用ミシン・産業機器の中国における部品調達を一段と拡大するなど最適生産体制の構築によるコスト削減に取り組みました。

また、工業用ミシンの海外販売拠点の見直しを進めるとともに、中国における産業機器の販売会社を発足させたほか、デモ・トレーニングセンターを深圳に設置するなど販売・サービス体制についても積極的に再構築を進めました。

更に、三次元CAD（コンピュータ支援設計）及びPDM（製品データ管理）システムとERP（統合業務管理）システムとのリンケージで、より効率的な設計開発の推進に努めるとともに中国に新たな開発拠点を設置し、新製品の開発を進めるなど開発の効率化へも取り組みました。

そして、製品・サービスの全てに亘る品質保証活動の強化により、信頼いただける「JUKI」ブランドの向上に努めてまいりました。

また、本社間接部門のスリム化による人員削減を進めるとともに在庫の圧縮と有利子負債の削減を行い、資産の効率化を図りました。

しかしながら、当上半期は期初におきましてはSARS（重症急性呼吸器症候群）の影響を受け、また、期末にかけては急激な円高の進行等、極めて厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の下、連結売上高は589億2千2百万円（対前年同期比2.9%減）、経常利益は7億7千6百万円（対前年同期比50.1%減）、中間純利益は13億8千7百万円（対前年同期比466.7%増）となりました。単体については、売上高は341億7千4百万円（対前年同期比8.1%減）、経常利益は2億6千万円（対前年同期比57.6%増）、中間純利益は1億9千4百万円（前年同期は5億2千7百万円の損失）となりました。

以上、申し述べましたとおりの業績内容でございますが、連結欠損金が解消できない財務面の状況をも勘案して、企業体質強化の観点から内部留保の充実に意を用い、誠に遺憾ではありますが当期の中間配当は見送らせていただきたく、株主の皆様には誠に申し訳なく存じますが、何卒よろしくご理解賜りますようお願い申し上げます。

私共JUKIは、グループの総力を結集し、財務体質の更なる改善と収益基盤の確立に向け取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては引き続き一層のご支援、ご指導を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成15年12月

取締役社長 中村和之

中間連結貸借対照表

(平成15年9月30日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流動資産	92,553	流動負債	89,508
現金及び預金	16,031	支払手形及び買掛金	14,459
受取手形及び売掛金	23,511	短期借入金	63,269
有価証券	66	未払費用	4,340
棚卸資産	47,565	未払法人税等	323
その他	8,261	賞与引当金	1,334
貸倒引当金	△ 2,882	その他	5,781
固定資産	38,394	固定負債	35,724
有形固定資産	23,276	社 債	500
建物及び構築物	9,921	長期借入金	29,545
機械装置及び運搬具	4,785	退職給付引当金	4,969
土地	6,026	役員退職慰労引当金	198
その他	2,544	その他	510
無形固定資産	2,582	負債合計	125,232
投資その他の資産	12,534	少数株主持分	483
投資有価証券	5,606	資 本 の 部	
その他	7,986	資 本 金	9,941
貸倒引当金	△ 1,057	資本剰余金	6,900
繰延資産	2	利益剰余金	△ 8,703
		その他有価証券評価差額金	△ 127
		為替換算調整勘定	△ 2,761
		自己株式	△ 15
		資本合計	5,233
資産合計	130,950	負債・少数株主持分・資本合計	130,950

- (注) 1. 記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 保証債務残高 406百万円
3. 受取手形割引高 2,174百万円
4. 有形固定資産の減価償却累計額 48,553百万円

中間連結損益計算書

(平成15年4月1日から
平成15年9月30日まで)

(単位：百万円)

売上高		58,922
売上原価		39,789
売上総利益		19,132
販売費及び一般管理費		16,853
営業利益		2,279
営業外収益		
受取利息及び配当金	183	
その他の営業外収益	1,060	1,243
営業外費用		
支払利息	1,247	
その他の営業外費用	1,499	2,747
経常利益		776
特別利益		
固定資産売却益	1,424	
投資有価証券売却益	657	
その他の特別利益	288	2,370
特別損失		
固定資産売却及び除却損	268	
投資有価証券売却損	38	
投資有価証券評価損	18	
その他の特別損失	77	402
税金等調整前中間純利益		2,744
法人税、住民税及び事業税	747	
法人税等調整額	579	1,327
少数株主利益		29
中間純利益		1,387

(注) 1. 記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 1株当たり中間純利益 13円54銭

当社第89期上半期（平成15年4月1日から平成15年9月30日まで）の営業の概況につきまして次のとおりご報告申し上げます。

営 業 の 概 況

当上半期のわが国経済は、景気底離れの兆しが見え始め、米国景気も回復基調にあるとの大方の見方ではありますが、IT（情報技術）関連設備投資などは価格低減の傾向もあり、また、個人消費にも力強さが感じられず、本格的な自律回復にはまだ程遠い状況にあるように思われます。

このような経済環境の下で、当社は収益の確保に努めるとともに開発・製造・販売・管理のすべての分野において合理化・効率化を進めてまいりました結果、当上半期の売上高は341億7千4百万円（対前年同期比8.1%減）、経常利益は2億6千万円（対前年同期比57.6%増）となりました。

また、固定資産除却損などの特別損失がありましたが、投資有価証券売却益などの特別利益を計上するなど、中間純利益は1億9千4百万円（前年同期は5億2千7百万円の損失）となりました。

部門別に見ますと、工業用マシン部門では、SARS（重症急性呼吸器症候群）の影響を受けた中国市場での売上が伸び悩み、また、期末にかけて急激な円高に見舞われるなど、工業用マシン部門合計の売上高は対前年同期比で19.8%減の168億1千6百万円となりました。

家庭製品部門では、最高級コンピュータミシンの国内売上は堅調に推移いたしましたが、海外向けのOEM販売が伸び悩み、また、宝飾品・健康商品の売上也前年同期を下回るなど引き続き消費不況の影響をうけました結果、家庭製品部門合計の売上高は対前年同期比で5.8%減の98億7千2百万円となりました。

産業機器部門では、中国市場での中型高速チップマウンター（KE-2000シリーズ）の需要が拡大し、国内の設備投資も回復の兆しが見え始めた結果、産業機器部門合計の売上高は対前年同期比で41.9%増の71億7千1百万円となりました。

当上半期の業績につきましては以上のとおりでございますが、下半期につきましても外国為替や株式市場の動向は予断を許さない状況が続くものと予測されます。また、連結欠損金も一掃されていない現状でありますので、誠に遺憾ではございますが、中間配当は見送らせていただくことといたしました。

株主の皆様のご期待にお応えすることができず、誠に申し訳なく存じますが、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後とも業績の回復に向けて引き続き努力を重ねてまいりますので、株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

以上

中間貸借対照表(単体)

(平成15年9月30日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流動資産	48,225	流動負債	58,125
現金及び預金	4,385	支払手形	6,129
受取手形	9,005	買掛金	3,855
売掛金	9,220	短期借入金	42,168
有価証券	66	未払法人税等	253
棚卸資産	13,578	賞与引当金	541
短期貸付金	7,041	債務保証損失引当金	104
その他	5,527	その他	5,073
貸倒引当金	△ 599	固定負債	27,463
固定資産	56,610	長期借入金	23,894
有形固定資産	7,930	退職給付引当金	3,179
建物	3,151	役員退職慰労引当金	173
機械装置	830	その他	215
土地	2,646	負債合計	85,589
その他	1,302	資 本 の 部	
無形固定資産	1,408	資本金	9,941
投資その他の資産	47,271	資本剰余金	6,900
投資有価証券	4,966	資本準備金	2,485
子会社株式・出資金	31,668	その他資本剰余金	4,415
長期貸付金	5,775	利益剰余金	2,560
長期滞留債権等	53	任意積立金	300
長期未収金	3,637	中間未処分利益	2,260
その他	4,731	株式等評価差額金	△ 139
貸倒引当金	△ 712	自己株式	△ 15
投資損失引当金	△ 2,849	資本合計	19,246
資産合計	104,836	負債及び資本合計	104,836

- (注) 1. 記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 保証債務残高 11,963百万円
3. 受取手形割引高 3,826百万円
4. 有形固定資産の減価償却累計額 25,736百万円

中間損益計算書(単体)

(平成15年4月1日から
平成15年9月30日まで)

(単位：百万円)

経常損益の部		
営業損益の部		
売上高		34,174
売上原価		24,099
販売費及び一般管理費		9,448
営業利益		625
営業外損益の部		
営業外収益		
受取利息及び配当金	954	
その他の営業外収益	1,009	1,963
営業外費用		
支払利息	871	
その他の営業外費用	1,456	2,359
経常利益		260
特別損益の部		
特別利益		
固定資産売却益	74	
投資有価証券売却益	655	
その他の特別利益	45	776
特別損失		
固定資産売却及び除却損	226	
投資有価証券売却損	38	
投資損失引当金繰入額	178	
債務保証損失引当金繰入	104	
その他の特別損失	41	589
税引前中間純利益		447
法人税、住民税及び事業税	252	252
中間純利益		194
前期繰越利益		2,033
合併による未処分利益受入額		32
中間未処分利益		2,260

- (注) 1. 記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 1株当たり中間純利益 1円92銭

役員 (平成15年 9 月30日現在)

取締役会長	山岡建夫	代表取締役
取締役社長	中村和之	代表取締役
専務取締役	鈴木恵喜	CFO(最高財務責任者)兼 CAO(最高管理責任者)兼 CIO(最高情報責任者)
専務取締役	杉原靖男	工業用マシン事業部長
常務取締役	三宅智久	CTO(最高技術責任者)兼 CQO(最高品質責任者)
取締役	藤田正邦	総合企画部長
常勤監査役	河村真也	
常勤監査役	田畑寛	
監査役	栗田盛而	
監査役	知久富男	
常務執行役員	佐々木正	家庭製品事業部長
常務執行役員	河野広志	工業用マシン事業部 副事業部長
上席執行役員	仲野敏一	ジューキ電子工業(株) 代表取締役社長
上席執行役員	上村功	JUKI大田原(株) 代表取締役社長
執行役員	吉田勉	産業装置事業部 営業本部長
執行役員	水野孝	重机(上海)工業有限公司 副董事長兼総経理

1. 取締役6名は執行役員を兼務しております。
2. 監査役 栗田盛而氏並びに知久富男氏は、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律第18条第1項に定める社外監査役であります。

会社の概況 (平成15年9月30日現在)

設立	昭和13年12月15日
資本金	9,941,213,750円
発行済株式総数	101,375,990株
株主数	12,259名
従業員数	1,348名
営業品目	工業用ミシン アパレルシステム機器 皮革厚物機器、産業機器 電子機器、家庭用ミシン 健康商品、宝飾品

株式についてのご案内

決算期日	3月31日
定時株主総会	6月
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞
名義書換代理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 (〒103-8670) みずほ信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 (〒103-8670) みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先 及びお問合せ先	東京都江東区佐賀一丁目17番7号 (〒135-8722) みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 (03)5213-5213
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店

JUKI

東京都調布市国領町 8 - 2 - 1

TEL 03-3480-1111

URL <http://www.juki.co.jp/>

証券コード 6440